始めから之の期待は持つてゐなかつたが会議中無邪気無中に
なつて戰つた弾丸團結權が日本に於て認められてゐない
それにかつて生ずる迫害に從容千七條の不合理等を挙げ
代表一行は徹夜して奮闘したことは男子やるすべきである
口陸海軍他会議は今盛ナ分なる期待はなまないが技術
的二百面から期待のみ多ない面を指示すると
一、言論が徹底しないこと
二、各國の異つた事情を細々と述べて労働者の目的を達
せしめないこと 會議で日本の政府が頑張れば大抵通
過すること
三、社会正義人道の上からとか云つて会議に出席し
てゐると云つてゐるが此も正義を持つて居てゐる者はなく

トーマーの如きは團結權の問題には大いに協力すると約束
あるから、海軍陸は色々自分の所信主義で少しも協力を
せず早に外交辞令であつたと後れを攻撃す。
確る工業の問題は三代表が階級的で無く戰業的見地
から大体意見が一致してゐる様に思はれた。
純々の点から口陸海軍は大いに期待を為ないことを繰
返してゐる。
七月二日 モスコー赤色労働組合代表から印度は其の近い未
てゐるのであるからモスコー近で来て労働者の状態を見て行
つては如何 又佐野孝子からもモスコーに行く様手紙が来
たから七月七日ジュネーバを立ち十四日伯林発十七日
モスコー着 その晩会議室に行き外国人歓迎を受け